

令和5年度 生徒指導専門委員会研修会

実施期日：令和5年11月7日（火）

会 場：埼玉会館 小ホール

主 催：埼玉県高等学校PTA連合会

後 援：埼玉県教育委員会

後 援：（一財）埼玉県高等学校安全振興会

目 次

次第 2 ページ

発表校資料

(1) 埼玉県立松伏高等学校PTA 3 ページ

(2) 埼玉県立新座柳瀬高等学校PTA 7 ページ

(3) 埼玉県立大宮工業高等学校PTA 11 ページ

(4) 埼玉県立深谷高等学校PTA 15 ページ

情報提供

① ペーパーティーチャーセミナー

② キャリアデザインセミナー

③ ハイスクール24還元事業「AED設置推進事業」

令和5年度埼玉県高等学校PTA連合会 生徒指導専門委員会研修会 次 第

日時 令和5年11月7日(火)

場所 埼玉会館 小ホール

受付 9:30~10:00

【司会・進行】 埼玉県立狭山工業高等学校PTA会長 吉野 広二

1 開会のことば(10:00)

埼玉県立小鹿野高等学校PTA会長 和田 安代

2 開会行事(10:00~10:10)

(1) 委員長あいさつ 埼玉県立松山高等学校PTA会長 新井 寛雄

(2) 講評者 紹介 (司会)

(3) 発表者・校長の紹介 (司会)

3 研究協議(10:10~11:30)

(1) 実践発表 (各校20分)

東部支部 埼玉県立松伏高等学校PTA会長 千葉 美香
【松伏高校におけるPTA活動と生徒指導】

西部支部 埼玉県立新座柳瀬高等学校PTA会長 渡邊 吉美
後援会会長 坂本 陽子
【コロナ禍からの復興とPTA活動】

南 支部 埼玉県立大宮工業高等学校PTA会長 竹原 司郎
【大宮工業高校におけるPTA活動と生徒指導】

北部支部 埼玉県立深谷高等学校PTA会長 須永 賢太郎
【PTA活動と生徒指導 ～部活動と制服の変更を中心として～】

(2) 質疑応答

(3) 講 評(11:40) 県立学校部生徒指導課 指導主事 手島 裕司 様

4 情報提供

埼玉県高等学校PTA連合会より 事務局 川田 清隆

5 閉会のことば(12:00)

埼玉県立小鹿野高等学校PTA会長 和田 安代

～松伏高校におけるPTA活動と生徒指導～

埼玉県立松伏高等学校PTA会長 千葉 美香

1 本校の概要

本校は、昭和56年4月に全日制普通科の県立高等学校として開校し、その後、平成2年4月には普通科情報コース（現普通科情報ビジネスコース）が設置され、さらに、平成6年4月には音楽科が設置されるなど、大きく変容しながら、本年度で創立43年目を迎えている。昨年度3月に卒業した生徒を加え、計一万を超える卒業生を輩出し、地域社会の様々な分野で活躍している。県東部の松伏町唯一の高等学校ということもあり、地元の期待に応えるため、地域の方々との交流を大切にしている。また、松伏町は「音楽の町」として力を入れていることから、地元や地域の方からの多くの依頼に応じ、音楽科や音楽系の部活動などを中心に様々なイベント等に参加し、日頃の活動の成果を発信しつつ、地域貢献も行っている。



正門から

本校の大きな特色は、前述したように2学科1コースが設置されていることから、それぞれの興味関心に応じた教育課程が用意されており、多様な進路希望に応える体制が整っていることである。

本校の生徒は、松伏町近隣の市町から通う者がほとんどであるが、音楽科には遠方から通う者も在籍している。女子生徒が男子生徒の2倍程度在籍しており、穏やかで明るく、しっかりとした挨拶ができる生徒が多い。教職員は学校規模に応じて人数が少ない中であるが、誠実で面倒見の良さがあり、多くを占める若手教員を中心に、ICTの活用や新たな活動を取り入れようとする意欲の高さも見られる。



音楽科専用棟「シンフォニア」

部活動では、県大会常連の女子バレーボール部やテニス部を中心に、弓道部など14の運動部があり、部員数が少ない中でも地道な活動を行っている。文化部では、看板の吹奏楽部、合唱部に加え、書道部や写真部などが全国・関東のコンクールで入賞するなど、同好会1団体を合わせて12の部が生徒の主体性を大切にした活動を行っている。



分校玄関

さらに、令和3年4月に開校した埼玉県立越谷西特別支援学校松伏分校が本校校舎内に併設され、学校行事を通じて様々な交流活動が行われている。新入生歓迎会から始まり、体育祭、文化祭、マラソン大会、球技会など多くの行事を共に行い、さらに、互いの授業を体験するなど年々交流の幅は広がってきている。教職員間での連携も進み、松伏分校の特別支援教育コーディネーターからの指導助言や支援を受け、円滑に学校生活を送ることが困難な生徒への指導に活かしている。

2 本校の課題

本校の教育活動の柱は「生徒の進路希望を実現させる」ことであり、さらに卒業後の進路先で自信をもって前に進んでいける力を身につけさせることであると考えている。様々な教育活動の中で、生徒に主体性や協働性を求めた取り組みを進めているが、18歳で成年年齢をむかえることに対する意識を育てることとともに、自己肯定感を高めていくことが不足していると感じている。幼少期から「与えられること」に慣れてしまっている生徒が、自らの力で考えようとする姿勢を身につけさせることは容易なことではない。また、私たち教職員も、まずは「生徒自身で考える機会を与えること」を意識した指導・支援が常にできているのかという、そうではない現実がある。高校3年間の中で卒業後の将来を自らの力で考え、自ら行動できる人材を育てていくために、生徒はもちろん保護者や教職員がどのような力が社会で求められるのかを共通認識し、意識して取り組んでいくことが必要であると感じている。

また、別の課題として挙げられるのは、生徒募集人員の確保である。近隣の人口減少に伴い、中学校を卒業する生徒の人数は年々減少している。とくに、本校は立地条件からも近隣地域の中学生の入学が頼みの綱であるため、近隣地域の中学生の減少は本校の生徒募集にも大きな影響が出てくる。急激な状況の変化は期待できないことから、特色ある2学科1コースをもつ本校の強みを、様々な媒体を用いて、広く発信していくことが必要であると感じている。

松 伏 町	110 人	22.4%
越 谷 市	219 人	44.7%
吉 川 市	81 人	16.5%
春日部市	32 人	6.5%
草 加 市	12 人	2.4%
三 郷 市	6 人	1.2%
さいたま市	7 人	1.4%
川 口 市	6 人	1.2%

3 生きる力を育てる教育の推進

目指す学校像として、「学力の定着及び向上と、専門的な技術・能力の伸長を図るとともに、幅広い社会性を身につけさせ、地域に信頼される人材を育成する。」を定めているが、この中でもとくに『幅広い社会性』とは、具体的にどのような「能力」を身につける必要があるのかを生徒や保護者、教職員が理解を深め、教育活動に取り組むことが重要である。

令和4年度当初より、「社会性＝生きる力」を育てるための方策として、教職員はもちろん、生徒や保護者に高校3年間で身につけたい力として【Matsubushi Eight Policy】(右資料)を示して取り組み始めている。各教育活動の中で具体的にどのような力を身につけていくのかを生徒と教職員が共有した上で取り組み、事後の振り返りをしながら Small Step で生徒の意識を高めていき、社会で必要とされる「能力」を向上させていくことをねらいにしている。また、教職員も漠然と教育活動を進めていくのではなく、目標やねらいを明確にすることで、教職員間の共通認識を高め、質の高い指導を求めていくことができると考えている。

令和5年度は、この中でもとくに「考える力」「聞く力」「行動する力」を重点化し、与えられることが当たり前となってしまっている本校生徒が、まずは自分の力で考えることや他人の意見を聞く(真意を聞き取る)こと、そして失敗を怖れることなく自ら行動することを求めているところである。

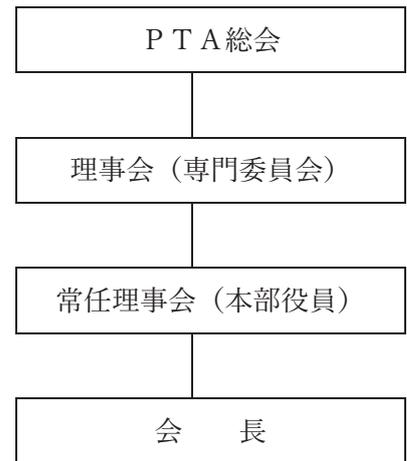
Matsubushi Eight Policy
(将来を豊かにするために身につけたい力)

①礼節・マナー <small>集団の中の一人として自覚と行動する力を身につける</small>	②考える力 <small>他者から与えられた情報をもとに、「考える」習慣を身につける</small>
③聞く力 <small>他者の意見を謙虚に聞く姿勢を身につける</small>	④行動する力 <small>積極的に行動を起こす習慣を身につける</small>
⑤思いやる力 <small>他者を尊重し、協力しながら取り組む姿勢を身につける</small>	⑥表現する力 <small>自分の考えを分かりやすく他者へ伝える力を身につける</small>
⑦工夫する力 <small>課題や問題を克服しようと努力する姿勢を身につける</small>	⑧振り返る力 <small>自分の取組を評価し、さらなる成長や改善につなげていく姿勢を身につける</small>

4 本校のPTA組織

本校のPTA組織は、学校規模の縮小（5クラス規模）や新型コロナウイルス感染症による活動機会の減少、役員活動に対する会員の考え方の変化を踏まえ、令和5年度当初より専門委員会を1つ減らす改編を行った。全校生徒490名（令和5年4月当初）の保護者及び教職員を加えて、544名の会員が所属する中、会長、副会長、顧問を含めた本部役員が18名、専門委員会に属する学年理事が65名（3年：28名、2年：21名、1年：16名）、教職員から14名が校内理事等の役職に就いている。

専門委員会は、改編により教養、広報、生活の3つの委員会を設け、それぞれの委員会が以下のように分担して取り組んでいる。



- 教養委員会：生徒の学習奨励、進路指導に関する事項及び各種文化活動に関する事項
→松伏町主催のセミナーへの参加、進路バス見学会参加など
- 広報委員会：調査、研究、広報及びその他必要な事項
→学校行事などの記録撮影、広報誌「ゆめみ野」の企画・発行など
- 生活委員会：生徒の校外活動指導及び安全指導のための必要な事項
→交通難全指導、生徒指導講演会、文化祭時の安全巡回指導など

5 生徒指導（生活指導）に関するPTAの具体的な活動

（1）交通安全指導

各学期初めの1週間、学校周辺の交差点などで、自転車乗車に対する交通ルールやマナーを中心とした交通安全指導を行っている。各分担ポイントで、教職員と協力しながら、生徒に声掛けを行い、交通安全に対する意識を高める活動を行っている。

保護者は、揃いの黄色いジャケットと同じく黄色い旗を持ち、生徒と積極的にコミュニケーションをとりながら取り組んでいる。



創立30周年記念
本校マスコット



マツケン・松太郎・松姫

(2) 生徒指導講演会

5月に行われるPTA総会の前に、高校生を取り巻く環境や課題などについての認識を深めるために、専門の講師を招いて、生徒指導講演会を開催している。

今年度は、埼玉県警察本部サイバー対策課から講師を招き、「SNS等に関する事件の概要とその対策について」をテーマにして開催した。生活の一部となっているスマートフォンの活用について、資料や現場の生の情報などから、改めてSNSの怖さと正しい活用についてを学ぶ機会となり、参加された会員の方々からも「貴重な話が聞けた」との感想が集まった。



(3) 松伏町主催「人権セミナー」

松伏町が主催する年10回程度の「人権セミナー」に参加している。地域との交流を持ちながら、改めて人権を考える機会を大切にしている。テーマに応じた専門家を招いての学習会では、現代社会で問題となっている人権侵害の現状や人権を守ることに對する啓発活動の情報などを学ぶことができ、学習内容は理事会などで情報共有を行っている。令和5年度は、男女共同参画、インターネット、障がい者、多文化共生、LGBTQ+、同和問題などをテーマに開催される。

(4) 文化祭における巡回指導

10月初旬に行われる松華祭（文化祭）の一般公開において、生徒の活動の様子を見守りつつ、安全を確保するために、校内の巡回指導を行っている。過去3年間は文化祭の一般公開が開催されなかったこともあり、本年度より再開することとした。

学校規模が縮小され、教職員の人数も減少していることもあるため、PTAと学校が協力して、生徒が大切にしている松華祭を安全に開催できるようサポートしている。



6 おわりに

社会の変化や家庭の状況などもあって、PTA活動に対する会員の意識を維持していくことは難しくなっている。加えて、学校規模の縮小により会員数も大きく減少し、組織運営のための人材確保や活動費用の面でも課題を抱えつつあり、今後活動を維持していくためにはPTA活動の在り方についてさらなる検討を要すると考える。

生徒の学校生活をより充実させていくために、PTA組織はなくてはならない存在である。どのような形で活動していくのがよいのか、他校の先進的な取組などを参考にしながら、本校のPTA活動をより良いものにしていきたいと考えている。



校歌石碑

【生徒指導とPTA専門委員会】

「コロナ禍からの復興とPTA活動」

新座柳瀬高等学校 P T A 会長 渡邊 吉美
後援会会長 坂本 陽子

1 本校の特色

本校は、再編整備計画により新座北高校と所沢東高校が統合され、平成20年度に開校した単位制普通科高校である。学校の北側には柳瀬川が流れており、周辺には武蔵野の豊かな自然が残っている。

各学年5学級規模で在籍生徒数は572名（令和5年5月1日）、男女比は42：58となっている。出身中学校別にみると、新座市30.1%、朝霞市13.1%、富士見市10.5%、所沢市9.4%、志木市8.7%などとなっており、約73%の生徒が自転車を利用している。

単位制の特徴を最大限に生かし、生徒が自らの進路希望に応じて科目選択ができるようになっており、2年次は3科目7単位、3年次は6科目（もしくは7科目）16単位を選択することができる。選択科目では比較的少人数の授業が展開されており、きめ細かく丁寧な指導が可能であるとともに、密度の濃い深い学びができるようになっている。

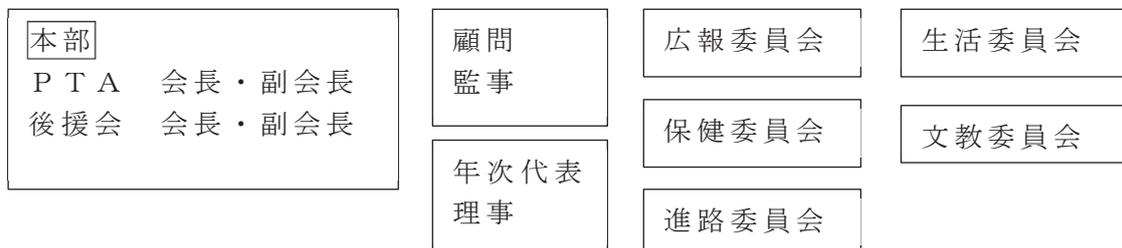
生徒の進路状況は、大学・短期大学が約34%、専門学校が約50%、就職・公務員・その他が約16%となっている。

令和6年度には所沢おおぞら特別支援学校の高校内分校の開校も予定されており、今年度はコロナ禍からの復興と分校開校準備を重点課題に掲げ、学校としての更なる発展を目指しており、PTA後援会として学校の発展を陰ながら応援している状況である。



2 本校のPTA活動

(1) 組織



【主な会議】 平日の夕刻に開催

- 4月 理事会⑤
- 5月 常任理事会⑤・総会
- 6月 常任理事会①＋理事会①等
- 7月 常任理事会②＋理事会②等
- 11月 常任理事会③＋理事会③
- 2月 常任理事会④＋理事会④等



総会

(2) 楽しく無理なく継続できるPTA・後援会活動

PTA活動において最も重要なことは、会員が子どもたちの成長を見守りながら、楽しく無理なく活動を継続できることである。これを踏まえ、以下に取り組んできている。

① 行事の精選と活動の再編整備

コロナ禍により、令和2年度以降、PTA後援会活動の多くが中止や紙面開催等になったが、令和4年度以降は活動そのものの意義を見直したうえで、前例にこだわらず工夫改善を図り、活動の充実に取り組んできた。



大学見学

会長等の負担を軽減するとともに、限られた予算を有効に使うため、全国大会への参加を見合わせた分、より多くの会員が参加できるよう単Pの研修旅行に、より多くの予算を配分し、大学と文化施設の見学を中心に内容を再編成した。

さらに、これまで体育祭が公開されていなかったが、令和4年度は3年生の保護者に、今年度は全ての保護者対象に公開されるようになり、文教委員会と保健委員会が受付業務を行うようになった。また、学校における働き方改革等を踏まえ、10月に行っていたPTAと先生方とのレクリエーション大会を中止し、来年度以降は体育祭時に先生方と一緒に大縄跳びを行えるかなど、行事の再編整備を検討している。



体育祭受付

② ICTの活用に向けて

募集生徒が6学級から5学級規模に減少し、予算規模が小さくなることを考慮し、これまで外注して製本し配布していた総会の議案書を電子化し、会員向けに電子メールで配信するなどICTの活用により予算の削減及び業務の効率化に取り組んだ。また、後援会役員あて案内通知はすべてメールで行っており、現在はPTA役員向けの案内をメール配信に変更する方向で検討している。

3 生徒指導と新座柳瀬高校PTA

(1) 交通安全指導

本校生のおよそ73%は自転車を利用して通学しており、毎日、先生方が正門付近で生徒の見守り活動を行っているが、PTAとしても生徒指導委員会を中心に、各学期始めの交通安全指導期間に先生方と正門で立哨指導に取り組んでいる。



交通安全指導

(2) 模擬面接を通じた生徒の進路実現に向けた支援

本校では夏と秋の年2回、3年次生の就職希望の生徒並びに推薦入試等で面接が必要な進学希望の生徒を対象に、PTA進路模擬面接会を行っている。生徒も最初は緊張しているが、保護者も人生の先輩として生徒たちにアドバイスをすることで、生徒たちも徐々にリラックスし、自信をつけているようである。特に、進学については近年入試が多様化していることもあり、夏の研修旅行で大学関係者から説明を受けることで、進学希望者向けの面接会に対応できるようにしている。



模擬面接会

(3) 学校行事でのかかわり (文化祭)

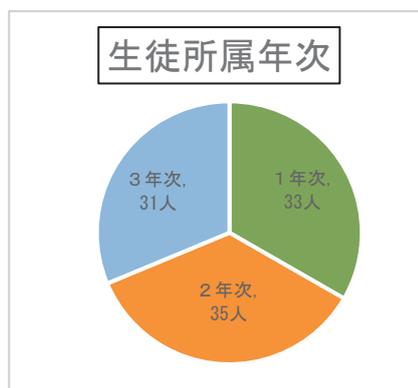
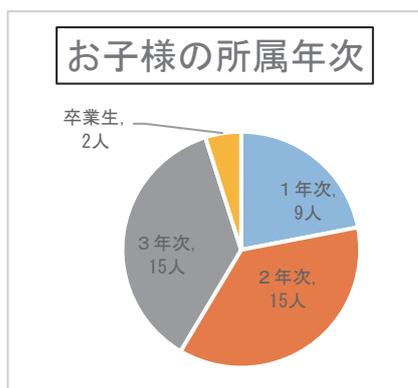
文化祭(「雲雀祭」)企画がPTAとして学校行事に積極的に係わる機会となっている。コロナ禍で3年間活動「雲雀祭」には参加しておらず、今年度は4年ぶりに参加し、保健委員会による「体力測定」と文教委員会によるパン販売を行った。過去の取組は分からず、手探り状態だったが、成功裏に終わらせることができた。

来年度は所沢おおぞら特別支援学校の分校と連携した取組ができないかなど、新たな可能性も模索している。

(4) 保護者及び生徒への意識調査

今年度の高P連専門委員会研修会で「生徒指導とPTA活動」の発表を担当することを受け、本部として、コロナ禍の3年間における保護者の意識調査(PTA後援会理事対象)を行うことにした。その後、保護者と生徒の意識の違いを比較するため、生徒対象の調査(各年次1クラス)も行った。保護者調査は総会に集まった会員に、生徒調査は各年次1クラスを抽出して行うことにした。

① (保護者・生徒対象)「コロナ禍と高校生活」意識調査結果

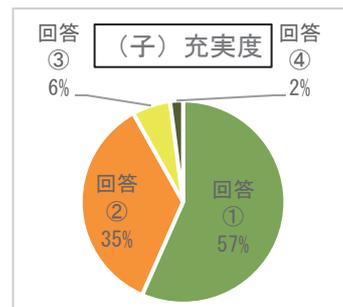
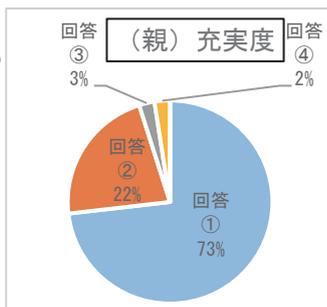


【注】はっきりとした傾向をつかむため、Q1～3の選択肢のうち、生徒対象の調査には「わからない」の選択肢を設けなかった。(保護者調査には選択肢に「わからない」を設けたが、できるだけ選ばないように依頼した。)
(保護者調査は令和5年6月14日実施、生徒調査は6月28日実施)

Q 1 コロナ禍の3年間は、(＜親＞お子様の・＜子＞あなたの) 学校生活にどのような影響を与えたと感じていますか？

- ① 学校生活に対する充実度が低下した
- ② あまり影響はない(以前とあまり変わらない)
- ③ 学校生活に対する充実度が向上した
- ＜親＞④ わからない
- ＜子＞④ その他(自由記述)
- ＜親＞⑤ その他(自由記述)

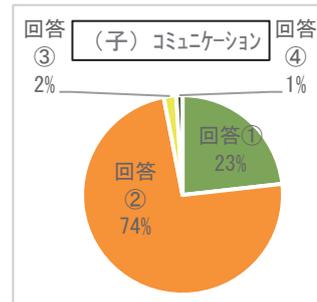
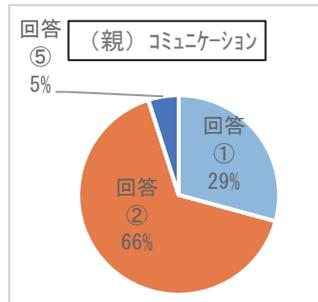
※紙面の都合上、自由記述は省略



Q 2 コロナ禍の3年間は、(＜親＞お子様の・＜子＞あなたの) コミュニケーション能力にどのような影響を与えたと感じていますか？

- ① 対面の機会が減ったため、コミュニケーション能力は低下した
- ② あまり影響はない(以前とあまり変わらない)
- ③ ICTの活用等により、コミュニケーション能力は向上した
- ＜親＞④ わからない
- ＜子＞④ その他(自由記述)
- ＜親＞⑤ その他(自由記述)

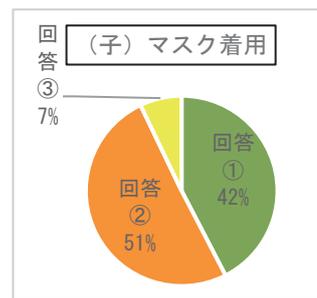
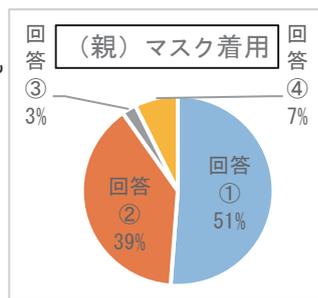
※紙面の都合上、自由記述は省略



Q 3 コロナ禍による長期間のマスク着用は、どのような影響を与えたと感じていますか？

- ① 感染防止のため着用している(いた)が、それ以外は特に影響はないようだ
- ② 人に顔を見られるのが恥ずかしいという意識もあるようだ
- ＜親＞③ わからない
- ＜子＞③ その他(自由記述)
- ＜親＞④ その他(自由記述)

※紙面の都合上、自由記述は省略



② 考察

Q 1、Q 2を見る限り、生徒よりも保護者の方が「学校生活への充実度」や「コミュニケーション」への影響を心配していることが分かる。紙面の都合上、詳しい分析は難しいが、自由記述などを見ると生徒自身が精神的に成長しながら大変な状況でも自分たちなりに楽しみを見出そうとしているのではないだろうか。

なお、Q 3の「マスク着用」については、「顔を見られて恥ずかしい」という意識が、保護者の想像以上に生徒自身が強く感じており、特に女子においてその影響が顕著である。今後の課題ではないだろうか。

4 おわりに

滞っていた活動も昨年度から徐々に回復し、今年度はコロナ禍前の水準に戻りつつある。しかし、単にコロナ禍前に戻るのではなく停滞期間を経たことで新たな創造につながっているのではないだろうか。これからも楽しく無理なく継続できるPTA・後援会活動を通じて子どもたちの健全な成長を見守っていききたい。



埼玉県立大宮工業高等学校

PTA会長 竹原 司郎

1 本校の概要

本校は埼玉県の南部：さいたま市（旧大宮市）に大正14年、鉄道省東京鉄道局大宮工場技工見習教習所を借り受け、大宮町立工業学校として授業を始めたのが起源とされています。その後二度市内移転し、昭和38年、現在の埼玉県立大宮工業高等学校に校名が改称されました。この時、校舎は大宮駅西口から徒歩30分ほどの榎引町、現在の埼玉県立大宮中央高等学校の場所にあり、定員は1学年あたり全日制機械科360名・電気科240名・建築科120名でした。現在の校舎に完全移転したのは昭和58年、平成2年には電子機械科が設置され、4学科構成に至っております。



本校校舎外観図

『「日本を支え 世界で活躍する 人間性豊かなエンジニアの育成」～小中学生に憧れを！在校生に自信を！卒業生に誇りを！～』を目指す学校像に掲げ、教育目標には、心身共に健康で自主的精神に充ちた、積極性のある個性豊かな魅力のある人間を育成する、感受性が豊かで思いやりのある、視野の広い、社会性を身に着けた国際社会に通用する人間を育成する、現代工業の基礎知識、技術・技能を身につけ、つねに科学的に考え、行動に当っては骨身を惜しまない実学の徒を育成する、本校ではそのような生徒を育てる取り組みをしています。これを支援する形で、大宮工業高校PTAは、保護者と教員が一体となって生徒の育成に寄与し、学校行事への積極的参加や情報交換の機会を得られるよう、保護者の行事参加に対するサポートや、生徒部活動への助成を行っております。

2 本校の現状と課題

本校は現在、1学年当たり機械科2クラス・電子機械科2クラス・電気科1クラス・建築科2クラスの7クラス構成で、全クラス数：21クラス、在籍生徒数は男子654名・女子41名の合計695名の生徒が学んでいます（令和5年10月現在）。多くの生徒は、勉学だけでなく、部活動も活発に活動しています。運動部は15あり、野球部は昭和43年の第40回全国選抜高校野球大会で優勝、柔道部は個人戦・団体戦で活躍し関東大会や高校総合体育大会へ出場、自転車競技部はトラック競技の各種目で高校総合体育大会へ出場し、ケイリン競技では全国優勝を達成しました。また文化部は9つあります。ラジオ部はモデルロケット競技で2年連続日本一となり、日本代表チームとして国際大会に出場、準優勝を収めま

した。これらの結果から、『第8回ものづくり日本大賞』において「ものづくりの将来を担う高度な技術・技能部門」で内閣総理大臣賞しております。これらの活動費は、各生徒家庭から学校へ納めていただいている『生徒会費』から支出されています。また、この『生徒会費』は部活動だけでなく、生徒会が主催する学校行事、特に『宮工祭（文化祭）』に多くの費用が支出されています。しかしながら、近年の少子化の影響もあり、入学してくる生徒数は定員割れを起こしていて、各生徒家庭から納入していただいている『生徒会費』の総額も減少の一途を辿っています。昨年度からこれらの活動費が『生徒会費』だけでは十分に賄いきれなくなり、PTAとして生徒の活躍の場を守り、生徒が一生懸命頑張った結果を残してもらいたいという願いから、『生徒会費』の補填をすることとなりました。この対策として、来年度から各生徒家庭より納入していただく『生徒会費』の値上げをPTA総会に提案し、可決されましたが、今後拍車のかかる少子化の波や、物価高騰による物品価格の値上がりも続くことが予想されます。ただ単に納入費の値上げという手段だけでなく、どのようにしたら本校の魅力を受験生に上手く伝えて生徒募集の効果に繋がるか、そのような検討は本校だけの問題に限らず、他校にも当てはまるものと思われま



野球部



柔道部



自転車競技部



ラジオ部

3 生徒指導の現状と取り組み

かつては遅刻者・欠席者が非常に多く、また頭髪・服装の乱れで注意を受ける者や生徒指導の対象者も多数いました。この状況を改善するため、生徒指導担当の教員だけで対応するのではなく、早期から常に学年・学科で指導すべき生徒の情報共有を持ち、生徒への声かけ・指導を皆で取り組むことで、徐々に改善されていきました。また、保護者と連携して家庭での生徒の生活状況を把握し、校内だけでなく家庭においても生活の乱れがないように各家庭と協力しながら改善を図っていきました。以下に主な本校の取り組みを挙げます。

[本校生徒指導の具体的取組]

(1) 自転車マナーアップ運動

本校の正門前の公道は、生徒が登校してくる時間帯に車の交通量が多く、また走行する車のスピードも速いため、自転車で登校してくる生徒が車と接触事故を起こしたり、時々近隣の住民から生徒の自転車マナーが悪いとの苦情をいただいていた。そこでその対策として、学級担任を除いた教員を4・5名程度ずつ曜日ごとにグループを組んで、朝の登校時間に正門前で自転車登校してくる生徒の交通整理や、挨拶・声かけをするようにしました。その結果、学校周辺での自転車交通事故はほぼ無くなり、校門前の道路横断も、教員の指示に従い自転車から降りて渡るようになりました。それと

同時に生徒の遅刻数も減少し、校門を入る際にも教員にしっかり挨拶できるようになりました。

(2) 生徒主導の遅刻防止運動

朝の教員による自転車マナーアップ校門指導以外にも、生徒会が指導している風紀委員会の生徒達が、月に1度1週間の間、当番制で15名程度、正門前やその周辺に立って、登校してくる生徒へ挨拶等の声かけをしたり、運動期間中の昼休みに放送を使って遅刻しないよう注意喚起をしています。このようなことをとおして、生徒自らが遅刻しないように登校する自覚をつけさせることで、学校生活の態度の改善にも繋がりました。

(3) 定期的な服装・頭髪指導

学年所属の生徒指導担当の教員を中心に、学年ごとに2カ月に1度ぐらいの割合で、服装・頭髪指導を行っています。これにより生徒の服装の乱れやだらしない頭髪の様子は改善され、生徒の学校生活全体にも良い効果としてあらわれています。外部の来客者からも、生徒の服装や挨拶等のきちんとした態度や対応に、好評を得ています。

4 本校のPTA組織と各専門委員会の活動概要

本校のPTA組織は『PTA』と『教育後援会』の2つの組織から成り立ち、『教育後援会』は『PTA』の活動を補佐する位置づけとなっています。そして各クラスから5名ほどの『PTAクラス理事』を選出し、そこから活動原案や総会案を検討する『常任理事委員』を選出・構成されています。この『常任理事会』で検討された活動案を年1回の『総会』並びに年3回の『理事会』で審議し、活動を行っています。

また『PTAクラス理事』は『進路指導委員会』『生徒指導委員会』『家庭教育委員会』『保健厚生委員会』のいずれかに所属し、各委員会の活動内容に従って学校行事等に携わっています。

各委員会の活動概要は以下のとおりです。

(1) 進路指導委員会

主にPTA・教育後援会での研修関係を担当します。また年1回、進路先企業や大学への見学会を企画・運営しますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、企画を中止しています。

(2) 生徒指導委員会

前項で示した『自転車マナーアップ運動』に年数回参加して、生徒の学校生活改善に協力しています。また学校行事としては『文化祭（宮工祭）』へのPTAとしての参加企画を運営し、保護者の文化祭への積極的な参加を促しています。

(3) 家庭教育委員会

学校行事の中で『体育祭』と『強歩大会』の運営を補佐する形で活動しています。体育祭では観覧される保護者の受付やプログラム配付、観覧場所の案内などの対応

をしています。強歩大会では生徒への給水やゴール後の補佐を行っています。

(4) 保健厚生委員会

保護者の親睦を深めるため、年1回『レクリエーション大会（ボーリング大会）』を企画・運営しています。しかしながら新型コロナウイルス感染症の影響により、ここ数年企画を中止しています。



進路見学会



文化祭



体育祭

5 生徒指導面におけるPTAの具体的活動

(1) 朝の自転車マナーアップ運動への参加

生徒の登校時間帯に正門付近で教員が自転車登校者のマナーを指導する『自転車マナーアップ運動』に、PTAの生徒指導委員会に所属するクラス理事の中で参加可能な理事の方に来校してもらい、年数回教員と共に生徒への挨拶・声かけをしています。生徒が本校を卒業して社会に出ていった際、周囲との挨拶を交わすことは社会人としての基本の一つであるので、その習慣を身に付けてもらいたいという思いから、この運動に参加しています。

(2) 文化祭での巡回警備に対する協力

新型コロナウイルス感染症の拡大から、令和3年・4年における文化祭は、感染症拡大防止のため、食品を取り扱う催事の中止や見学者の制限などを設けての開催となりました。この間、PTAとしては団体催事参加を中止としましたが、何らかの形で文化祭の運営に協力したいという思いから、校内の巡回警備に参加しました。

6 おわりに

本校は二年後に創立百周年を迎えます。また、県教育局の『魅力ある県立高校づくり第二期実施方策』に基づき、本校と浦和工業高校が統合し、本校の敷地に新校として三年後の令和八年度から開校します。百周年という大きな区切りを迎え、周年記念行事に協力していくこともさることながら、三年後の新校開校を目指し、PTAの組織編成もどのようにするか、検討しなければなりません。これらに取り組みながら、PTAとして学校の生徒活動に協力していきたいと思えます。

1 学校概要

本校は昭和49年に創立され、創立50周年を迎えた歴史と伝統のある学校です。開校以来「文武両道」を目標に掲げ、オリンピックなどの日本代表選手や地域のリーダーとして活躍する多くの卒業生を輩出しています。

創立50周年を意識し、令和4年度から目指す学校像が次のようになりました。

**「文武両道」を目指し、心豊かな生徒を
地域とともに育てる学校**



(ラグビー部 R3 決勝戦は全校応援)



(男子バレーボール部県大会 保護者の応援)

ラグビー部・男子バレーボール部を中心に部活動に力を入れております。部活動での保護者の協力体制が本校の強みです。

学習面では、学年に1クラス特進クラスを設置し、土曜補習や平日補習を実施しています。進路多様校として、就職にも進学にも対応できるよう入学段階から計画的に進路指導を進めています。



(創立40周年記念事業で校門を改修)

現在、10月20日(金)の創立50周年記念式典に向け、後援会長が実行委員長を務める実行委員会を立ち上げ、実施しました。また、記念事業の一環として、令和5年度入学生より制服を変更しました。

2 本校のPTA・後援会組織と活動

本校のPTA・後援会組織は、次のとおりです。

【PTA本部役員】

PTA会長1名、副会長7名(教頭含む)

幹事8名、監事3名

※ 会長・副会長3名は、ラグビー部保護者

【後援会本部役員】

後援会長1名、副会長3名、監事3名

11支部から理事を選出し、支部長が常任理事を務めています。理事会を年間3回実施するとともに各支部で支部総会・懇談会(学校からの説明と学年別懇談)が行われます。

また、役員は4つの委員会に分かれ、活動をしています。

(1) 総務委員会

研修旅行の企画立案、運営を担当します。

令和4年度は地域の偉人、渋沢栄一翁ゆかりの地を訪ねました。近くにありながらもなかなか足

を踏み入れたことのない施設を訪ねるとともに栄一翁が好きだった「煮ぼうとう」をおいしくいただきました。

深谷の子どもたちは渋沢栄一翁について、幼い頃から学んでいます。親が学ぶことで共通の話題ができると感じます。改めて親が学ぶことの意義を感じました。

今年度は、10月28日（土）に東京都にある渋沢史料館を訪ね、浅草を散策しました。



（ 渋沢栄一記念館 アンドロイドによる講演 ）

（2）生徒指導委員会

文化祭での一般公開時の巡回指導を担当します。今年度は、風紀委員の生徒と担当の先生方とともに巡回をしました。特に問題となる点もなく、子どもたちの主体的な活動の様子やたくさんの笑顔を見ることができました。



（ ビブスを着用し、文化祭で巡回 ）

また、10月初旬に委員が分担して3日間に分かれて先生方とともに正門前に立ち、登校指導を実施します。深高生の自転車の乗車マナーやあいさつ等の様子を知ることができます。



（ 校門での登校指導 ）

（3）進路指導委員会

上級学校見学会の企画立案、運営を担当します。令和3年度はオンラインで実施しましたが、令和4年度からバス見学を再開しています。

今年度は、城西大学・アルスコンピュータ専門学校を訪問しました。バス内でも業者の方から進路選択について説明いただき、大学と専門学校の違いが理解できました。最新の情報を入手することができたとともに本校卒業生の話聞くことによりパンフレットだけではわからない部分が理解できました。

また、1・2年生の早い段階から参加すればより効果的で子どもと考えることができたという意見もありました。



（ アルスコンピュータ専門学校での説明 ）

大学の授業時間は90分だと思っていましたが、さらに延長されていることを知り、驚きました。また、本校の卒業生の話聞き、夢があって素晴らしいと感じました。学食が食べられるとよかったという意見も聞かれました。

(4) 広報委員会

年2回発行するPTA新聞「ふかこう」の発行を担当します。掲載した「保護者より」の記事を紹介しします。

- ・毎日本当に充実している姿が見えます。特に部活動をとおして学ぶことが多く、子どものちょっとした変化にも感激しています。これからも今しかできないことをたくさん経験して一緒に楽しみ、そして応援していきたいと思います。
- ・高校生になってあっという間に2年が経ちました。部活動に一生懸命取り組む姿に息子の成長を感じています。これから進路決定という大きな決断がありますが、これまでの努力や経験を無駄にせず、しっかりと「道」を見つけてほしいと思います。
- ・何事に対してもマイペースな所のある子でしたが、進路については自分で決めていたことに驚きと自立を感じる事ができました。残りの高校生活も充実して過ごせるようサポートしていきたいです。

記事にあるように学校と協力をしながら、子どもたちの成長が実感できるPTAでありたいと思います。会長として、全力で学校と生徒をサポートし、より良い教育環境を作り上げていこうと考えております。

3 制服変更への取組み

学校評議員会で制服の変更について意見があり、検討を進めた結果、創立50周年記念事業の一環として、制服を変更することとしたと令和4年度当初の本部役員会で校長から説明がありました。より生徒や保護者が望む制服にしたいという校長の要望を受け、学校とPTAとで連携して取組みました。

(1) アンケートへの協力

本部役員会の了承を得て、生徒と並行して保護者に対してもQRコードからWeb入力をするアンケート調査を実施しました。

アンケートの内容(一部)は次のとおりです。

- ・ 深谷高校を色で例えたとしたら何色をイメージしますか？
- ・ 今の制服の好きな所を教えてください。
- ・ 今の制服の改善した方が良いところを教えてください。
- ・ どのスタイルが好きですか？
 - 男女スーツ
 - 男女ブレザー
 - 男子詰襟
 - 女子セーラー服
- ・ 制服に求めるデザインはどれですか？
 - かっこいい
 - かわいい
 - スポーティー
 - 伝統的
 - その他
- ・ 制服に求めるものは何ですか？
 - 価格の安さ
 - 着心地の良さ
 - 家で洗える
 - 丈夫なつくり
 - 温度調節可能
 - サイズ調整可能
 - その他

(2) 理事会での意見交換

5月の理事会でアンケート結果が示され、意見交換を行いました。在校生も制服は変更になるのかという声があり、あくまでも令和5年度入学生から変更すると説明いただきました。新制服は、LGBTQへの配慮など社会情勢を意識すると説明がありました。

5月のPTA・後援会総会において、アンケー

ト結果から制服の方向性が示され、上着は着心地を意識し、ニット地を考えているという説明を受けました。実際に試作品を着用した前副会長は、肩回りの動きやすさに驚きを感じておりました。

6月の理事会でも先生方から進捗状況が報告され、製造業者対象に説明会を実施し、コンペティションが行われると説明を受けました。実際に展示された見本を見ながら感じたことを伝えました。

9月の理事会では、冬服だけでなく夏服についても提案があり、ポロシャツの導入についての説明がありました。制服についての校内規定において、性別に関係なく、男女統一した規定とすることや制服のレンタル制についても意見を求められました。レンタル制を導入するならばどれくらいの価格帯を希望するかとの質問に挙手で回答し、その結果を事務長が販売店に伝えました。

本校では、ジャケットとスカート・スラックスについては販売店（1社のみ）によるレンタル制が導入されております。

こうして10月の学校説明会で披露され、新聞等に掲載されました。今年度入試で志願倍率が上昇したのも制服の変更の影響もあったと感じています。

11月の理事会では、新制服ポスターの掲示依頼を受け、協力をしました。

こうして、先生方と生徒、PTAが協力して急ピッチで進めました。1学期の1年生へのアンケートでは「着心地がよい」「(ネクタイとリボン) (スカートとスラックス) 選択できるのがよい」と概ね高評価であると聞き、子どもたちが長い時間着用する制服で快適に過ごしていることをうれしく感じています。

4 おわりに

令和2・3年度は、コロナ禍でPTA行事がほとんど実施できず、令和4年度はどの行事も引継ぎがなく、進めるのに苦勞をしました。

感染症等に配慮が必要な状況は続いておりま

すが、活動はもとの状況に戻つつあります。

私たちPTAは、生徒たちのために存在しています。これからも生徒たちが健やかにそして素晴らしい未来を迎えることができるように進めていきたいと考えております。



【必ず購入するもの】

- ・ ジャケット
- ・ ワイシャツ (長袖)
- ・ ネクタイ または リボン
- ・ スラックス または スカート (冬用)

【希望購入するもの】

- ・ ベスト (学校指定)
- ・ セーター (学校指定)
- ・ ワイシャツ (半袖)
- ・ ポロシャツ
- ・ 夏用スラックス・スカート



ペーパーティーチャーセミナー

教員免許はあるものの、全く教職経験のない方や
教職経験はあるものの様々な理由で教職を離れている方に
説明・相談会等を行います。

<対象者>

教員普通免許状を有している方（有効期限超過により失効している方も含みます）で、さいたま市立を除く県内公立学校で勤務を希望する方

<申し込み>

下記QRコードからアクセスし、
応募フォームに必要事項を入力してください。



埼玉県マスコット
コバトン&さいたまっち

第1回令和5年9月30日（土）

午後1時30分～午後4時30分
彩の国 すこやかプラザ2階大ホール

【申し込み締め切り】9月22日（金）

第2回令和5年10月18日（水）

午後1時30分～午後4時30分 春日部地方庁舎3階大会議室

【申し込み締め切り】10月11日（水）

第3回令和5年10月24日（火）

午後1時30分～午後4時30分 ウェスタ川越4階大会議室

【申し込み締め切り】10月17日（火）

第4回令和5年11月12日（日）

午後1時30分～午後4時30分
彩の国すこやかプラザ2階大ホール

【申し込み締め切り】11月3日（金）

第5回令和5年11月26日（日）

午後1時30分～午後4時30分
熊谷地方庁舎4階大会議室

【申し込み締め切り】11月20日（月）



<内容>

- ・説明Ⅰ（20分）
教員として任用されるまで
- ・説明Ⅱ（15分）
最近の教育事情について
- ・説明Ⅲ（15分）
待遇・福利厚生について
～休憩～ 教科書展示（15分）
- ・教員として働いてみて（経験者談）（25分）
- ・説明Ⅳ（10分）
研修制度・サポート体制について
- ・相談・登録会
70分（相談等希望する方のみ）
※5回とも内容は同じです。

※教員免許状に関する お問い合わせ
は、下記をご覧ください。

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2210/kyoin-menkyo/index.html>

埼玉県教育委員会

[問合せ先] ①小・中学校のお仕事を希望される方
県教育局小中学校人事課 TEL 048-830-6937
②県立高校・特別支援学校のお仕事を希望される方
県教育局県立学校人事課 TEL 048-830-6738

キャリアデザイン・セミナー開催

～進学や就職など自分のキャリアを、企業視点から考える～

当日の内容

企業経営者と生徒・保護者・関係教員の四者による面談会を行います。

企業が求める人材像や現代社会の状況などから高校や大学等卒業後の自分らしいキャリアと進路を考えます。



期待できる効果（昨年度の感想から）

生徒

- ・企業経営者から見た自分の特徴や長所がわかる。
- ・社会人になる際の漠然とした不安が解消できる。
- ・自分のキャリアを考える時間となり、これから意識すべきことが整理できる。
- ・学校では経験できない、企業経営者との面談ができる。

保護者

- ・企業人の考え方を、子供と一緒に学べる貴重な機会。
- ・固定的だった進路に対する考え方が広がる。
- ・子供と普段話せない進路について話すきっかけとなる。
- ・子供の人生を見通しながら、目の前の進路を考えることができる。

教員

- ・普段聞くことができない、例えば、企業の評価基準や給与の考え方を知るなど、今後の教科指導力や進路指導力の向上につながる。
- ・生徒が相談している内容から、生徒達のリアルなニーズや悩みを理解できる。

日時・場所

日時 令和6年1月27日（土） 午前の部 9：30～12：30
午後の部 13：30～16：30

※面談時間は一組あたり45分です。終了後、解散となります。

※詳細の時間は開催日の一週間前までに御連絡します。

場所 新都心ビジネス交流プラザ4F（JR埼京線 北与野駅北口より徒歩約2分）
遠方の方は、オンラインでの御参加も可能です。

面談予定者

県内4経済団体から推薦者

<県内4経済団体>

埼玉県経営者協会

埼玉県商工会議所連合会

埼玉県産業振興公社

埼玉中小企業家同友会

※面談者は社長、専務、常務などを予定

申込方法

担任の先生に申し出てください。

申込期日 ○月○日（○）

※ 参加者は、別紙「参加申込書」を御提出ください

※ 保護者の方の参加が難しい場合は、担任の先生に相談してください。

埼玉高P連第 38 号
令和5年10月5日

県公立高等学校長 様
県公立高等学校PTA会長 様

埼玉県高等学校PTA連合会
会 長 大竹 雅樹

埼玉県高等学校PTA連合会 ハイスクール24還元事業

「AED設置推進校」の募集について（ご案内）

日頃より、PTA連合会活動への御理解、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当連合会が加盟校保護者様にご案内している「ハイスクール24」について、皆さまのお陰をもちまして多数のご加入いただき、厚く御礼申し上げます。

「ハイスクール24」は、埼玉県高P連が団体契約をすることにより、一般加入より4割超の割引率で加入できるメリットのほかに、事務費等の収益を加盟校に還元できるメリットがあります。連合会では、新たな還元事業の拡大を模索してまいりました。

そして、ヘルメット着用推進事業に加え、今年度は「AED設置推進事業」を新規に企画いたしました。AEDの使用は一刻を争うため、保健室、体育館、校庭、格技場などに各所に設置したい実情がありますし、遠足、長距離走大会など校外行事に携帯したい事情もあります。

このような実情を踏まえ、ハイスクール24還元事業「AED設置推進校」を募集いたしますので、希望される学校PTA様は、下記の要領でご応募いただきますようご案内申し上げます。

記

- | | |
|-----------|--|
| 1 配布機種 | ストライカー社製「サマタリンPADシリーズ」 |
| 2 メンテナンス | 8年間消耗品0円保証、メンテナンス保証 |
| 3 取扱社 | 株式会社ヤガミ（東京都北区）
（商品発送、メンテナンス、オンライン説明会関係） |
| 4 応募受付 | 応募用紙にご記入のうえ、メール送信してください。
E-mailは sai.p@saikoupren.jp です。 |
| 5 応募〆切 | 令和5年10月31日（必着） |
| 6 設置推進校発表 | ハイスクール24の加入状況等により10校選考します。
推進校に決定した学校に11月10日までに連絡します。 |
| 7 設置ケース等 | 別売です。 取扱社まで相談ください。 |